

ココロがある。コタエがある。



本店

PROFILE

(平成18年9月30日現在)

商号	株式会社 西日本シティ銀行
設立	昭和19年12月1日
本店所在地	福岡市博多区博多駅前3丁目1番1号
資本金	857億45百万円
店舗数	228か店
従業員数	4,419名
総資産	6兆5,595億円
預金・譲渡性預金残高	5兆7,334億円
貸出金残高	4兆4,807億円



シンボルマークには、西日本シティ銀行がお客さま・株主・社会とともに成長し、喜びをわかちあい、地域に根ざした花を咲かせていくという願いを込めました。上部の花びらはそれぞれがステークホルダー（個人や法人のお客さま、株主、地域社会、行員など）を表し、下部の人間像はそれらを力強く支えていく西日本シティ銀行の姿勢と喜びを表現しています。また、全体をユニークで独自性の高いフリーハンドで図案化し、躍動感や人間的優しさを表現しています。コーポレートカラーは、あたたかい人間性や輝く太陽を表すオレンジと、洗練性や先進性を感じさせるブルーの2色を使用しています。



ごあいさつ

皆さまには、平素より西日本シティ銀行をお引き立ていただき、心より感謝申し上げます。

このたび、当行の経営方針や平成18年9月期の事業の概況等をまとめました平成18年度中間ディスクロージャー誌を作成いたしましたので、ここにご報告いたします。ご高覧いただき、皆さまのご理解を深めていただければ幸いに存じます。

当上半期のわが国経済を顧みますと、企業収益の改善を背景とした設備投資や輸出の増加が、個人消費の増加や雇用情勢の改善へと波及しており、国内民間需要に支えられた景気は堅調に推移しました。

金融界においては、経済・物価情勢の改善基調を受けてデフレ脱却に向けた議論が高まりを見せるなか、昨年3月の量的緩和政策の終えんと7月のゼロ金利政策の解除などにより、短期金融市場に金利水準の調整機能が復活するなど、金融の本来の機能を働かせる素地が整いつつあります。

金融機関においては、郵便貯金の民営化を含め公的機関の諸改革がすすめられるなか、主要行の本格的な拡大戦略の展開や地域金融機関の県境を越えた再編の活発化など、競争環境は激化しており、気の許せない状況が続いております。

このような金融経済環境のなかで、当行は役職員一致協力して経営内容の充実と業績の向上に努めてまいりました。おかげ様で昨年9月には、第1回優先株式の一部に関して、自己株式の取得及び消却を実施し、公的資金700億円のうち350億円を返済することができました。また、昨年8月には地域金融システムの安定化への貢献を目的として、豊和銀行への出資を行い、次いで9月には同行との営業面での業務提携を実施いたしました。

今後も、中期経営計画「アクティブNCB」に掲げた具体的取組策の実践により、一段の経営合理化と競争力・収益力の強化に努めるとともに、円滑な資金供給や質の高い金融サービスの提供を通じて、地域経済の発展に貢献し、お客さま、株主の皆さまをはじめとするさまざまなステークホルダーから高く評価される地域金融機関を目指してまいります。

今後とも一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年1月

取締役頭取 久保田勇夫

目次

PROFILE

ごあいさつ

経営方針

経営理念	3
中期経営計画「アクティブNCB」	4

平成18年9月期業績ハイライト

損益の状況	6
自己資本比率の状況	6
不良債権の状況	7

地域の皆さまとともに —CSRへの取り組み—

貸出金の状況	8
預金・預り資産の状況	8
社会・文化貢献活動	9
トピックス	10

資料編	11
連結ベース	12
単体ベース	30
開示項目一覧	62

- 本誌は銀行法第21条に基づいて作成したディスクロージャー資料です。
- 計数につきましては原則として単位未満を切り捨てて表示しております。